厚生消防常任委員会要点記録

日 時	令和7年6月19日(木)	開 会	10時00分	会議時間
		閉 会	14時15分	3:08
場 所	委員会室			
出 席 者	新岡委員長・吉永副委員長・長谷委員・前田委員・早坂委員・生本委員・太田委員 傍聴議員：矢野議員・柏野議員			
説 明 者	副市長、生活環境部長、保健福祉部長、子ども未来部長外34名	傍聴者数	0人	
事 務 局	議会事務局長、議会事務局次長、議事担当主査	記 者	2人	

会 議 の 経 過 事 項

	<p>委員長が開会を告げ、傍聴の許可をし、議事日程について説明する。</p> <p>●日程1. 付託案件審査について</p> <p>1) 陳情第2号 泊原発再稼働に対して慎重な判断を求める意見書の提出を求める陳情書</p> <p>【質疑】</p> <p>なし</p>
新 岡 委 員 長	<p>それでは、継続審議か採決か、採択の場合、採択か不採択かも含め、理由も含めて順次発言願いたいと思います。</p>
吉 永 委 員	<p>この陳情の内容がふわっとしてしまっていて、曖昧であること、それから、今原子力規制委員会でパブリックコメントを取ってますので、これのパブコメの内容を確認してからでもいいかと思しますので、継続をお願いします。</p>
長 谷 委 員	<p>私も今5月末までこの件に関してのパブリックコメントをやっているということを知っております。その結論について、その意見についての検討を2か月から3か月かけるということであったので、いろいろな道民の意見、それぞれ企業の意見、様々な意見あると思いますけれども、その意見の集約をした後でもまだ間に合うのかなというふうに思いますので、この件につきましては継続でお願いいたします。</p>
前 田 委 員	<p>私も継続審査をお願いします。慎重な判断を求めるということなんですけれど</p>

	<p>も、泊原発が2012年に停止してからそれから13年がたつのですが、もうこの間、非常に慎重な議論をされているという認識で私はいます。世論についても尽くされている状況にあるということで、もうそろそろ判断する時期に来ているのかなと思います。しかしながら、規制委員会の正式な合格の判断が夏頃、そして、道議会の検討状況も踏まえる必要があるということから、継続審査ということにいたしました。</p>
早坂委員	<p>私もこれからいろんな意見が出てくるということですので、継続でお願いしたいと思います。</p>
生本委員	<p>泊原発再稼働に対して、慎重な判断を求めるという陳情内容に対しては、何ら否定するものではありませんが、もう少し協議を深めたいという意見が委員会の中でもあるのであれば、内容を精査することも必要かと思いましたので、継続審査でお願いいたします。</p>
太田委員	<p>私も継続審査でお願いします。生本委員と同じように、私もこの陳情の内容に関しては否定するものではないですけども、ただ、陳情自体がちょっとぼんやりしてるイメージがあるので、もう少し議論を深めたいなと思っています。</p>
新岡委員長	<p>それでは、委員皆様の御意見が継続ということでした。では、継続審査ということで、皆様、御異議ございませんでしょうか。</p>
各委員	<p>(「異議なし」の声あり)</p>
新岡委員長	<p>それでは、この陳情書に関しましては継続審査としたいと思います。</p>
	<p>【結果】</p>
	<p>継続審査</p>
	<p>日程1. 付託案件審査について終了</p>
	<p>●日程2. 所管事務調査について</p>
	<p>1) 報告事項</p>
狩野生活環境部次長	<p>・厚生消防常任委員会 所管事項に係る「組織図」、「事務分掌及び組織」及び「現況と今後の展開」について</p>
	<p>・事故等発生(処理)報告について</p>
狩野生活環境部次長	<p>資料説明 事故等発生(処理)報告について</p>
	<p>【質疑】</p>
	<p>なし</p>
	<p>日程2. 所管事務調査について終了</p>

<p>北国組織改革推進課長 佐々木 総務課長</p>	<p>●日程3. 消防本部・署関連 1) 報告事項 資料説明⑭ 恵庭市消防組織風土改革プログラムの推進施策の実施状況 について</p>
<p>前 田 委 員</p>	<p>【質疑】 ① それでは、今の報告に対して質疑をさせていただきます。このプログラム、令和3年12月から組織改革に向けて、3年間しっかりと進められて、様々な取組、そして評価・検証等によって大きな成果を上げているということに對しまして、非常に評価をするところであります。その上で質疑をさせていただきます。 このアンケート調査結果なんですけれども、アンケートというのは不特定多数にやるものですけれども、職員に対してやるというのは非常に厳しいというか、難しかったのではないかと、非常に負担になったのではないかと思います。また、ハラスメントというデリケートな問題に対するアンケート、これについても非常に難しいものだったと思います。そんな中で、今回、記名式という形でされたことについて、普通のアンケートでもなかなか回答率高くないんですが、これ記名式にすると、今回の75%なんですけど、通常であれば90%等の回答率なんですけれども、低かったと思いますが、これを含めて、この記名式にした理由、経過、それと75%という回答率について御所見を伺います。</p>
<p>北国組織改革推進課長</p>	<p>① ハラスメント調査についての御質問にお答えさせていただきます。昨年度のパワーハラスメント調査結果において、組織としてどのように取り組むべきかという問いに對しまして、全体で取り組むべきという意見が多数出ておりましたことから、アンケートの調査方法を無記名式から記名式に変更することにより、パワーハラスメントの被害に遭っている者や見聞きしている者を特定できることができ、それら関係者から事情聴取することで、パワーハラスメントの撲滅に向けた取組を行うことができるという判断をいたしました。また、従来どおり、無記名式により意見をしたいというものに対しては、職員目安箱等を活用するように周知して実施しているというところです。</p>
<p>新 岡 委 員 長</p>	<p>回答率に対する所見は答弁もらわなくていいんですか。</p>
<p>前 田 委 員</p>	<p>あったほうがいいですけど。75%という。</p>
<p>北国組織改革推進課長</p>	<p>① 回答率につきましては、委員のおっしゃるとおり、無記名式だと90%近いということですが、記名式になると低くなるという想定はしての厳しい方法を採用したということでございます。</p>
<p>前 田 委 員</p>	<p>① 分かりました。記名式に皆さんが賛同してやられたというのは、それなりのチームワークというか団結というのがあったのかなというふうに考えます。 ② 次に、資料②のパワーハラスメントアンケート調査結果についてお伺いしたいのですが、最近1年間でパワハラを受けたことがあるという質疑、設問に対して、令和2年は10人いたんですけども、このいろんなプログラムをすることによ</p>

佐々木 総務課長	<p>って、令和6年度1名まで減っている。非常にこれは成果だと私は感じているのですけれども、あると答えた1名に対して再度設問していますよね。これについて、記名式ですので、誰がというのは特定できたと思うのですけれども、この該当者に対する事後の対応、それと、職場にもやはりそれを見た人とかいろんな人がいると思うのですが、このアンケート結果について、当人と職場に対する対応をどうされたのかを伺います。</p>
前 田 委 員	<p>② まず、パワハラ被害を受けたと申し出た者に対する対応ですけれども、今委員おっしゃいましたとおり、本人も特定できますので、直接本人と2回ほどの面談を実施し、適切に対応をさせていただいているところでございます。それと、職場全体に対してどのような対応ということでございますけれども、パワハラの内容をチェックできるパワハラチェックシートといったようなものを行いました。それを全職員に配布しまして、自己チェックでありますけれども、自己チェックにより自覚を促すというような取組をさせていただいているところです。</p> <p>② やはりハラスメント事案が起きたときは、当事者だけではなく、その周りの人方も、意識だとか、そういうところをしっかりと対応することが大事だと思っていますので、今言われたことを理解して、しっかりとやっていただきたいと思います。</p> <p>③ 最後の質疑になります。資料③です。職場環境に関するアンケート調査結果ですけれども、設問の10、11、これ規律に関する結果になってはいますが、大変気になった点があります。私は元自衛官ですが、部隊活動、組織の中では団結、規律、士気というのは非常に大事で、組織の中ではやっぱり規律というのが非常に大事だと思っています。この職場の規律確保しているのかという問いに対して、はいが36%、非常に低いと私自身思っております。規律が確保されているのか、普通であれば6割ぐらいが確保されていますと言うのであれば納得いくのですが、これが35%で、どちらとも言えないが46.7%、これも2人に1人なんですよ。その次に、やるべきことを行わない人を注意する雰囲気があるのかというものに対して、これまたいいえと答えたのは48.9%。これも2人に1人がもう何ていうか、非常に黙認しているような状態で数年と比べて10ポイント増加している。これ非常に問題、課題だなと思っているのですけれども、これに対して、この結果について御所見を伺います。</p>
北国組織改革推進課長	<p>③ 職場環境アンケートに対しての所見、今後の対応についてお答えさせていただきます。初めに、服務規律の確保の問いにつきまして、回答者数にもよりますが、例年と比較していいえが減少傾向にあるということと、どちらとも言えないというものは増加傾向にあります。消防署においては、毎朝、車庫前において、礼式、答礼とか敬礼とかそういう部分の礼式による朝礼、または、勤務交代及び安全宣言を行っています。また、消防本部においては、事務所内でも同様のことを行っています。また、毎月消防本部、消防署、出張所の消防職員に対しまして、消防長による制服を着用した服装点検を実施しており、規律の確保には努めていると認識しているところです。</p>

次に、やるべきことを行わない人を注意する雰囲気があるかという問いに対しまして、数的な部分におきましては、例年と比べて低い傾向にあるかとは思いますが、問18のところにおいて、あなたの上司は必要に応じて部下に適切に注意、指導、助言を行っていますかでは、はいが9割を超えているというようなところを鑑みまして、部下から見て上司の指導等は適切に行われていると認識しております。ただ、ジェネレーションギャップ、若年化になっていることから、コミュニケーション不足も影響しているというふうに感じているところです。

今後におきましては、職員同士がちゅうちょせず意見を言い合える、心理的安全性の高い組織づくりを求められたということになりますので、各所属におけるミーティングから訓練の前後の話合い、災害発動後の振り返りなど、場面や、特に災害活動中に隊員全員が臆することなく活発な意見を出し合って現場活動できるような職場のコミュニケーションスキルの向上に努めて、消防活動の仕事につなげていきたいと考えております。

前 田 委 員

③ 上司との関係、今述べられましたけれども、やるべきことをやる、やるべきことというのは、例えば法律、規則類、これをしっかり守ること、そして上司からの命令だとか指示、これをしっかり守ること、これがやるべきことなんですよね。だから、個人個人でこのやるべきことをやるということの規律を図るバロメーターなんです。数値が少ない、大きい、これはやはり規律を図るバロメーターになります。私はやるべきことをしっかりやられているかどうか、それを見て見ぬふりをしているかどうか、これがしっかりアンケート結果でも出ているのですから、今後しっかりこれを真摯に受け止めてやっていただきたいなと思いますので、よろしくをお願いします。

1) 報告事項終了

2) その他所管事務調査について

新 岡 委 員 長
児 玉 消 防 署 長

ここで、消防より報告の申出がありますので、これを許可いたします。
私から、火災出動に伴う水損事故について御説明させていただき、御報告をさせていただきたいと思っております。概要につきましては、令和7年6月8日、日曜日、覚知時間が12時48分、恵庭市恵み野西5丁目10番1号、北海道ハイテクノロジー専門学校第5校舎の8階トイレから煙が出ているとの通報を受け、消防車両6台と17名が出動しております。火災発生場所が建物8階であったことから、建物の消防設備である連結送水管に消防車両から送水し、活動する命令をいたしました。火元を確認したところ、周囲に煙は認められたのですが、延焼はなかったことからバケツによる消火を行い、鎮圧鎮火となっています。そのときにですが、消防隊長が活用した消防設備を確認したところ、連結送水管ではなく連結散水設備であり、誤送水したことが判明しました。建物の地階の連結散水設備の送

水により、地階及び同場所の物品を水損させ、多くに被害を与えたものです。

当時の対応につきましては、消防隊長より連結散水設備への誤送水をしたと報告を受け、現場確認を行い、施設への損害を与えることを確認したことから、学校責任者へ状況報告するとともに、有線にて消防署長の私へ事故報告を行い、現場への臨場を要請しております。指揮隊は現状に回帰し、臨場した消防署長へ状況報告を行い、関係者へ発生経過と今後の対応について説明し、謝罪を行っているところです。

事故を起こした原因といたしましては、送水前の認識、確認不足、消防設備に関する知識不足によるものと分析しております。

今後の再発防止策につきましては、消火活動上必要な設備について、再認識、職員間における現場確認の徹底を図り、今後、同様の事故を起こさぬよう、全職員に周知徹底を図っていきたいと考えております。

私からの報告は以上です。

【質疑】

早坂委員 ① 再発防止策とかを確認したのですが、今後具体的にどのようなことに取り組んでいかれるか伺います。

児玉消防署長 ① 今後どのようなことに取り組んでいくかという御質問でした。それにつきまして、消火活動上必要な消防用設備であります連結送水管、また、連結散水設備などについて職員の教育を改めて行っている状況であります。また、事故の発生原因、要因をさらに分析するために、検証を実施し、準備を進めているところです。今後におきましても、研修を継続し、知識不足を解消させ、再発防止に努めてまいりたいと考えております。

吉永委員 ① 先月14日に泉町において火災が発生いたしました。類焼を逃れて比較的短時間で鎮火に至ったことは非常に評価すべきことだと思います。出動した消防隊員の迅速な判断と消火はもちろんですが、地域の協力体制や周辺の住民の適切な避難行動も要因と考えられると思います。現場ではドローンを運用して消火活動に当たったということです。本当にありがとうございました。こうした事例は、防火意識の醸成や災害対策の一層の強化に向けた好事例として、市としてもしっかりと検証して、次につなげていただければと思います。

今回の火災では、通行人からの通報が発端となっておりますが、市として火災・防災情報共有の手段がおありになりますか。あるとすれば、現場周辺の住民への迅速な情報提供をされたらどうでしょうか。また、地域の初期消火体制等についての評価や課題があるかどうか伺います。

秋葉警防課長 ① ただいまの質疑の前段の火災防災情報共有手段がありますかという問いについてお答えします。火災を含む出動情報につきましては、本市指令システムと連動した災害電話案内、0123-33-3191番にて、救急出動以外の各種出

	<p>動の災害種別、災害地点付近の住所について情報提供をしています。また、現在、他のツールを活用した情報提供を検討しているところです。</p> <p>なお、本年9月18日から運用開始を予定しています札幌圏総合支援センターでは、札幌圏共通の電話番号による災害電話案内に加え、札幌市のホームページにおいて、リアルタイムの出動情報と、前日までの出動状況の統計速報値が閲覧可能となります。なお、このことにつきましては、恵庭市のホームページへリンク情報を掲載するほか、広報誌や恵庭市ホームページ等で市民へ周知する予定です。なお、防災情報につきましては消防からの情報提供はありません。</p>
大西消防救助2課長	<p>① 付近住民への情報提供、それと一部の初期消火についてお答えします。火災発生時、現場付近住民への情報の周知については、出動した指揮隊が現場到着し、指揮本部を設置後、車両等の拡声機を使用して付近住民に火災発生を周知するとともに、関係者や逃げ遅れ、負傷者の有無の情報提供を呼びかけます。実際、延焼の危険のある建物については消防団員が直接確認して避難を呼びかけ、対応しております。また、今回のこの火災で、飛び火により共同住宅敷地の管理人室が延焼しました。これを一般市民の方が消火器を使用して、消火を実施してくれました。火災の延焼を未然に防いでくれました。これは、ふだん事業所や町内会などで消火器を使用した取扱い訓練などを実施したことの効果があったと考えております。</p>
吉永委員	<p>① 消火器の取扱いに慣れていたことによって延焼が防がれたというのは非常に重要なことだと思います。</p> <p>② さて、今回火元となりました製造所のような可燃物を取り扱う施設に対して、日常的にどのような防火点検指導が行われていたのでしょうか。また、過去に是正指導や改善勧告が出された事例があれば、その辺の対応についても伺います。</p>
小柴防災推進1課長	<p>② 製造所等の可燃性資材を扱う施設に対しまして、日常的な防火指導、防火点検をどのように行っているかについてですが、製造業を専門に行っております事業所におきましては5月末現在、市内に315棟あります。消防署では、計画的に立入検査を実施いたしまして、関係者の立会いの下、危険物質の保管状況や管理の取扱いについて各法令等に基づきまして指導しております。また、過去に行政指導や改善勧告が出されていた事例があれば、その対応についてですが、消防署では立入検査を実施した後に、改善計画書というのを1か月以内に提出をさせまして、そして、その計画に基づいた是正がされるべきかどうかという追跡調査を行います。追跡調査した結果、是正が進んでいない状況に関しましては、さらなる追跡を行い、是正を促しているような状況です。また、計画以外にも市民の通報によるものもあり、それも消防署が対応している状況です。</p>
吉永委員	<p>③ 今回の火災の検証結果を踏まえて、市として今後どのような再発防止策を講じていかれるのかを最後に伺います。</p>
朝倉予防課長	<p>③ 私から今後の再発防止対策と地域への支援方針についてお答えさせていただきます。泉町で発生しました火災の原因については、現在調査中となっております。</p>

	<p>す。また、再発防止については、春や秋の火災予防運動などにおいて、住宅防火や事業所の防火管理徹底について周知対策してまいります。</p>
長 谷 委 員	<p>① まず、今回ハイテクの事故に関してなんですが、連結送水管や連結散水管設備を備えている建物というのは、恵庭市内に何件あるか伺います。</p>
児 玉 消 防 署 長	<p>① 市内に連結送水管、また散水設備が設置されている施設はどれぐらいあるかという質問にお答えします。連結送水管につきましては17施設で、連結散水設備は2施設となっております。連結散水設備の2施設につきましては、恵庭市役所と北海道ハイテクノロジー専門学校第5校舎1施設となります。</p>
長 谷 委 員	<p>② このたび、散水管と送水管をちょっと間違えたというよりも、認識がなかったというふうに私は捉えたのですけれども、そのことに関しましても、人の命に関わる火災、事故現場に行かれる消防隊員の方、今住宅の建て方もいろいろなことがあります。結構条例変更だとか改正だとかありますよね。その都度、署内での共通認識というのはしっかりやられているのか伺います。</p>
児 玉 消 防 署 長	<p>② 法令等が変更になった場合、また、改正された場合も、研修・教育についてということですが、そういう部分に関しまして条例等、法令等変更または改正になった場合には、職員への周知等を行い、そこを確認させているような状況となっております。それに対しまして、また各セクションで研修等を行っている状況です。</p>
長 谷 委 員	<p>分かりました。しっかりやっていただきたいと思います。</p> <p>これは所見なのですけれども、お許しいただきたいと思います。日頃、市民の安心・安全のために、我が身を挺して消火活動に邁進されている消防署員の方々に本当に敬意を表する次第です。また、先ほど吉永委員からもありましたけれども、過日の泉町の火災において、ちょっと私知らなかったのですけれども、恵庭の消防は、もちろん人命救助が第一なんだけれども、状況に応じてなんだろうけれども、とにかく延焼を防ぐために努力しているということで、近隣には延焼しなくて済んだということも聞いているところです。そのことにつきまして、本当に我々も知らなかったことが、消防署では努力しているなということを初めて聞いたところです。</p> <p>また、今回の事故に関しましては、先ほどの風土改革の中でもあったように、コミュニケーションを取りながら、やはり慣れや過信、知識不足、個人の資質の問題などが事故が起こる要因として上位のほうに上がっていると思いますけれども、今回このようなことが、風土改革も含めて、消防署内でのしっかりとした職員の教育、並びに上司の方はできるだけジェネレーションギャップと言わないで、部下の方とコミュニケーションを取りながら、本当に風通しのいい消防署内にしていただいて、今後さらに市民の安心・安全な生活を営むことに対する努力をしていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p>

	<p>2) その他所管事務調査について終了</p> <p>日程3. 消防本部・署関連終了</p> <p>●日程4. 生活環境部関連</p>
<p>渡邊地域担当主幹 菊地戸籍担当主幹</p>	<p>1) 報告事項</p> <p>資料説明①令和6年度における町内会活動活性化事業補助金の実績について</p> <p>資料説明②戸籍の振り仮名記載について</p>
<p>早坂委員</p>	<p>【質疑】</p> <p>① 資料②で、恵庭市本籍人数が6万4,951人ということなのですが、確か恵庭市の人数が7万人ぐらいですので、その残りの5,000人というのはどういう方たちか伺います。</p>
<p>菊地戸籍担当主幹</p>	<p>① 住民票を置いている方と戸籍を置いている方というのは、考え方が別になっておりまして、恵庭市に住んでいらっしゃる方が恵庭市の住民の方となりますが、恵庭市に本籍を置いていらっしゃる方が本籍人ということになりまして、恵庭市に住民票があっても恵庭市に戸籍を置いていらっしゃらない方もいますし、この逆に、ほかの町に住んでいらしても恵庭市に本籍を置いていらっしゃる方がいるということで、その差引きが5,000人ぐらい違うという形になっておりますので、恵庭市は本籍を置いている方が少ない市になりますけれども、逆に本籍の方が多い地域もあります。</p>
<p>早坂委員 菊地戸籍担当主幹</p>	<p>② 例えば、外国人の方は本籍はこちらにないということによろしいか伺います。</p> <p>② 本籍というのは、日本国民であることによって置けるものになりますので、外国人の方は対象外となります。</p>
	<p>1) 報告事項終了</p> <p>2) その他所管事務調査について</p> <p>【質疑】</p> <p>なし</p>
	<p>日程4. 生活環境部関連終了</p> <hr/> <p>10時55分 休憩</p> <p>11時04分 再開</p>

<p>笹川福祉課長 佐藤障がい福祉課長</p>	<p>●日程5. 保健福祉部関連</p> <p>1) 報告事項</p> <p>資料説明③第5期恵庭市地域福祉計画の策定について</p> <p>資料説明④障がい者相談支援事業による「基幹相談支援センター」及び「障がい者相談支援事業」の運営事業者公募について</p> <p>資料説明⑤(仮)こまば地域活動センター施設創設に対する財政支援について</p> <p>資料説明⑥高齢者世帯等除雪サービス事業の見直しについて</p> <p>資料説明⑦第2期恵庭市運動・スポーツ推進計画の策定について</p> <p>資料説明⑧恵庭市民スキー場のアンケート結果及びリフト券販売実績について</p> <p>資料説明⑨恵庭市民スケート場の夏季の利活用に係るサウンディング型市場調査について</p> <p>資料説明⑩島松水泳プール新設事業について</p>
<p>生本委員</p> <p>佐藤障がい福祉課長</p>	<p>【質疑】</p> <p>私からは、資料⑤の(仮称)こまば地域活動センターに関する財政支援についてと、資料⑨、恵庭市民スケート場の夏季利用活用に係るサウンディング調査についての2点質問いたします。</p> <p>① まず、資料⑤の部分ですけれども、いろいろ計画内容、経緯と、あと財政支援についての御説明のほうは理解いたしました。そこで、質問の1点目は総事業費が約14億9,000万円になるという金額は、3棟先行建設、3棟を初めにスタートさせる建築費用だと思うのですが、これで、この分なのか、それとも残りの2棟分を含むものなのか、どちらかを確認させてもらいたいということと、もう一点の質問は、事業の開始時期が令和8年4月に延期となったという部分ですが、この事業開始時期というのは、建物を建築するスタートの時期なのか、それともこのセンター自体が始まる時期なのか確認のため伺います。</p> <p>あと、三つ目の質問ですけれども、2ページ目の総事業費の財源内訳のほうを確認したところ、総事業費14億9,132万円を100とすると、法人負担の金額6億5,100万、ふるさと融資が5億7,600万ということで、法人の負担割合というのが8割超えるというのですかね。たとえ融資の部分であっても、返済は事業者が負担することになるので、私が思ったのは、一つの事業体で、事業主で賄い切れる金額なのかということ伺います。</p> <p>② あともう一点の、資料⑨市民スケート場の夏季の利活用についてなんですけど、サウンディング調査というのはどういったところに調査を行うものなのか、どういった事業体とか職種の方に調査するのか伺います。</p> <p>① 私からは、資料⑤の質問についてお答えさせていただきます。まず、総事業費についてでありますけど、こちらは3棟ということで伺っております。また、事業</p>

	<p>開始時期についてですが、こちらは着工ではなくその障害福祉の事業を始める時期と聞いております。</p> <p>また、もう一つの財源についてですが、一事業者で賄いきれるのかという御質問だと思いますが、事業者からそのようなお話や提案というのは、そういったことでお話を伺っているところでもあります。</p>
渡部健康スポーツ課長	<p>② 私からは、資料⑨のサウンディング調査の関係の御質問にお答えします。どういった事業体を想定しているのかというような御質問だと思いますけれども、こちらにつきましては、特段何か基準を設置しているということではございませんので、この市民スケート場を有効活用できるアイデアを広く募りたいということが今回の事業実施の大きな目的ですので、そういったところからいきまして、普段どういった活動されている事業体、業者さんであっても、この市民スケート場の夏場を活用して、こういうことを展開したいというような、そういったアイデアを広くいただきたいと求めている調査ということですよ。</p>
生 本 委 員	<p>③ 資料⑤ですが、今後のスケジュールを見ますと、今年の7月頃に借入申込みの国庫の部分と道費補助の部分の内示されるという部分ですけれども、ここから金額等正式に決まっていくことだと思っておりますが、残り1年切った段階で、施設の事業開始というのは間に合うものでしょうか。改めて伺います。</p> <p>夏場のスケート場の利活用に関しては分かりました。了解いたしました。</p>
佐藤障がい福祉課長	<p>③ 今後のスケジュールについてであります。こちらについても、事業者からそのようにお話を伺っているところです。間に合うかにつきましても、このスケジュールでお話を伺っているところです。</p>
生 本 委 員	<p>④ こまばの地域活動センターのこの最後の質問ですが、地域住民への説明会は開催されたということでもいいのですか。であればこの施設が障がい者の方にこういう内容で、この地域に建ちますという公表するタイミングといいですか、それはもう既にされているのですか。ちょっと私のほうで全然認識しなくて申し訳ないのですが、されているかどうかの確認のため伺います。</p>
佐藤障がい福祉課長	<p>④ 住民の方に対する説明会は既に行われております。</p>
伊東保健福祉部長	<p>④ 今大きく譲らせていただきましたけれども、冒頭のこれまでの経緯のところで、プロポーザルによって恵庭光風会さんを含む共同体へ売却が決定して、その際に、一度今生本委員おっしゃられた、ここにこういうようなこういう施設が建ちますというようなものは、町内会も含めて説明をさせていただいております。また、そのときは当初の5棟と事務所棟ということで地域説明したのですけれども、私の方に変更後の3棟先行建設だと。あと2棟、残りの2棟建設時期未定ということで、まずそういう計画を変更したいのだというお話をいただいたときに、こういう計画であれば、当初の説明した内容から変更した部分についても、しっかり地域に説明をしてくださいということで申し上げまして、それも光風会のほうで行われたと報告をいただいているところです。</p>

前 田 委 員	① 私も資料⑨の市民スケート場の夏季の利活用に係るサウンディング調査について質疑いたします。調査目的に、近年利用率が低下とありますけれども、まず、近年3か年の利用実績について伺います。
渡部健康スポーツ課長	① 前田委員の御質問にお答えします。市民スケート場の直近3か年の利用状況という御質問でございますので、夏季と冬季に分けて御説明させていただきたいと思えます。まず、3か年ですが、3年前の令和4年度シーズンにつきましては、夏季の利用が2,300人、続きまして、冬季の利用が1万1,402名で、合わせますと1万3,702名ということになります。続きまして、令和5年度につきましては、同じく夏季が3,096人で、冬季が7,317人で、合わせますと1万413人。最後に、昨年、令和6年度シーズンですけれども、夏季が2,210人で、冬季が7,327人で、合わせますと9,537人という推移となっております。
前 田 委 員	② 3か年、本当に段階を経てというのは分かりました。私は、この恵庭市のスポーツ振興を考える上で、この市民スケート場の利活用というのは非常にキーポイントになると考えております。そんな中で、やはり民設、民営とか官民連携というのは非常に大事になってくるのではないかな。そういう中で、今回のこのサウンディングというのは非常によい手法というか、アイデア、事業だと思っています。 そこで、これはこれで進めても本当に結構ですけれども、この10年先を見据えたときに、恵庭市のスポーツ振興を考えたときに、この地域における市民スケート場の位置づけ、どういうふうに捉えて考えておられるのか伺います。
渡部健康スポーツ課長	② 市民スケート場の5年、10年先を見据えた位置づけというような御質問なのかなと思いますけれども、市民スケート場につきましては、先ほど冒頭の御説明でも申し上げましたが、夏季は多目的なトレーニング施設という位置づけをまずはさせていただいております。さらには、市民スケート場ですので、その名のとおりといいますか、市民にとって大変重要な冬のスポーツ、健康づくりの場というような大切な施設であると考えておりますので、今後につきましても、まずは学校の授業など冬季スポーツを市内で安全・安心に学び、楽しんでいただく場として必要な場所であると考えているところです。
前 田 委 員	③ 分かりました。この地域を見ていただくと分かるように、近くには恵庭公園というのがあるんです。その恵庭公園には、屋外スポーツ場として野球場があり、陸上グラウンドがあり、テニスコートがあるんですね。そして球場もありますよね。そしてさらに、桜町の多目的広場があって、これうまくこの3点を活用すれば、非常にいいスポーツ施設になるのではないかなと思っています。今、第6期の総合計画を検討中なんですけど、本当に5年、10年先のことをしっかり考えながら、この恵庭公園スポーツ施設、恵庭公園を核とした多目的広場、スケート場、これをうまく活用した何かそういうスポーツ施設、これを検討するためのサウンディング調査も、民間活用という意味では今後検討したほうがいいんじゃないか

<p>渡部健康スポーツ課長</p>	<p>なと思いますけれども、これに対する御所見を最後に伺います。</p> <p>③ 市民スケート場のみならず、周辺のスポーツ施設も一体的にというようなお考え、御質問と思いますけれども、今回のサウンディング型市場調査につきましては、冒頭で御説明をさせていただいたとおりの内容で進めてまいりたいと考えているところですが、この本調査を進めていく中で、仮に恵庭公園ですとか桜町など周辺を含めた内容の提案があった場合には、そこは我々の担当している違う所管の施設ということも混在していますので、所管部とも情報共有を図りながら、今後の参考として取り扱うというようなことは考えてまいりたいと考えているところです。</p>
<p>早 坂 委 員</p>	<p>① スキー場の件でお聞きしたいんですが、大変貴重なアンケートを取っていただいて、検討するというので、ぜひ活用してもらいたいと思います。ちょっと気になる点が二つほどあったんですが、子ども料金が長沼スキー場に比べて2倍ほどになっている。長沼700円で恵庭が1,300円だということもあって、やっぱり高いんじゃないかということと、あとシニア料金、3時間1,000円というのがすごい魅力的だと思うんですが、やっぱり60歳以上でいいんじゃないかと思うんですが、このところはどうか伺います。</p>
<p>渡部健康スポーツ課長</p>	<p>① 早坂委員の市民スキー場の御質問にお答えします。まず、料金のほうです。まず、子ども料金がお隣の長沼スキー場と比較して本市の料金は高いのではないかと御質問ですが、御覧のとおりというのが正直なところです。現時点では恵庭市の料金体系につきましては、しばらく何年も変わっていないところですので、そういった部分では現状は委員のおっしゃるとおりと思います。子ども料金に関しては今おっしゃられたとおりのかもしれませんけれども、例えば本市のスキー場におきましても、ナイター料金が一律500円ということで、これはもうかなり近郊と比較しましても破格の価格になっているようなことです。残念なのはなかなかシーズンが長く続けられないというところがあるんですが、そういった恵庭市の優位性といいますか、金額的にもお得なチケットも用意させていただいているというところがまず1点あるということは申し上げさせていただきたいと思います。</p> <p>金額の部分につきましては、現時点では、この後お答えいたします試行券の部分につきましては、この試行という部分をどうしていくかということは今検討しているところではありますが、それだけではなくて、引き続きその他のリフト券の券種につきましても、今後も引き続き、他市の料金等も参考にさせていただきながら検討していくというふうには考えているところです。</p> <p>もう一点、シニア料金ということで、今回、高齢者3時間券ということで割安なチケットを用意させていただきまして、比較的こちらは利用も伸びてきたところで、好評をいただいているのかなというふうには考えているところですが、年齢設定につきましては、60歳がよろしいのか63歳がいいのか65歳</p>

<p>早 坂 委 員</p>	<p>がいいのかというところは、それは今後、社会情勢等々も考えながら、引き続き検討して参りたいと考えているところですので、現時点では、現状の体制でこれをどうしていくかということで検討させていただきたいと考えているところです。</p>
<p>渡部健康スポーツ課長</p>	<p>② このアンケートには、子どもの料金がスクールの場合も同じだということで、子ども料金が安くなればスクールも参加する人数も増えると思うのですが、どうでしょうか伺います。</p> <p>② スキースクールの利用は子どもたちを中心に、スキー学校が運営してくださっておりますので、現状ではやはり盤尻のスキー場、特に昨年もそうだったのですが、雪不足でなかなか盤尻のスキー学校を開けないというところが続いております、そういうときは、大体隣町の長沼スキー場を利用して、恵庭のスキー学校も運用をさせているというように聞いているところです。そういったところから、料金の部分につきましても、やはり長沼は安いのにという意見が多分アンケートの中にも出てきたのであろうと思いますので、こちらにつきましても、先ほどの御答弁を繰り返すような形になってしまいますが、今後、子ども料金の設定の仕方、在り方についても、近隣も参考にさせていただきながら、引き続きアンケートは続けて参りたいと考えています。</p>
<p>太 田 委 員</p>	<p>① 資料⑧の市民スキー場についてお伺いいたします。アンケートのほう拝見いたしました。おおむね好意的なものが多くて、市民の方にすごく親しまれているスキー場だということがよく分かりました。1点だけリフト代のことについてお伺いしたいのですが、市内のスポーツ施設では、障がい者の手帳をお持ちの方は提示すると総合体育館、島松体育館、福住運動広場など、利用料金が無料になったりするようなこともあるのですが、スキー場に関して、このような障がい者割引を検討されたことがあるのかどうか伺います。</p>
<p>渡部健康スポーツ課長</p>	<p>① 太田委員の御質問、スキー場の料金の関係ですけれども、現在まで、スキー場のリフト料金に関して、障がい者の割引ですとか、無料化ですとか、そういったところを具体的に検討したというような経緯がありません。</p>
<p>太 田 委 員</p>	<p>② 今、民間のスキー場でも障がい者の方の割引などを行っているところもあります。障がいの種類、様々あるので、全ての人が利用できるわけではもちろんないのですが、利用する方の中には、付添いの方がいるからとか様々な事情で、体育施設と同じように、こちらのスキー場も割引になったらいいのになという声もありますので、できればこういうリフト代についても検討していただきたいと思うのですが、御所見を伺います。</p>
<p>渡部健康スポーツ課長</p>	<p>② 障がい者の皆様方も、グレンデに来ればほかの方と、健常者の方と同じように楽しめる方もたくさんいらっしゃるであろうというふうには我々も理解しているところです。障がい者の割引料金等々につきましては、先ほど御答弁申し上げたとおり、現時点ではそういったことを検討してきた経緯は残念ながらありませ</p>

	<p>んけれども、今後につきましては、今委員おっしゃられたような形で、他市、他の道内のスキー場の状況、リフト料金の動向なども研究させていただきながら、今後について、恵庭市ではどうあるべきかというところから調査検討をさせていただきたいというふうに考えています。</p>
新岡委員長	<p>他に質疑はありませんでしょうか。無ければ私から質疑をしたいので委員長を交代します。</p>
吉永委員	<p>委員長を交代いたします。</p>
新岡委員	<p>私から資料④、障がい者相談支援事業による基幹相談支援センター及び障がい者相談支援事業の運営事業者公募について、3点質疑したいと思います。</p> <p>① 1点目、市内の障がい者の相談事業者は何か所あるのか伺います。</p> <p>② 2点目、現在、光風会e-ふらっとさんのほうで、基幹相談支援センター等機能強化事業として、似たような事業というのは運営されていると思うのですが、現在担っている業務と、今度公募する障がい者相談支援事業及び基幹相談支援センター、これが担う業務というのはどのような違いがあるのか伺います。</p> <p>③ 3点目、現在のe-ふらっとの人員体制と、公募する事業の人員体制、これに変更があるのか伺います。</p>
佐藤障がい福祉課長	<p>① まず、一つ目の御質問にお答えいたします。相談支援事業所の数ですが、4か所となっています。</p> <p>② 二つ目の御質問で、現在の相談支援強化事業と基幹相談支援事業との違いについてですが、こちらについては、令和7年度においては、違いがなく全く同様に、それを切り分けることでの設置を考えているところであります。</p> <p>③ 三つ目の御質問は、現時点での委託、光風会さんに対する委託ですが、現時点では6名の人員で委託いただいております、これを公募で何名規模にするかというところについては、現時点ではまだ計画をしている段階ですので、何人というところは申し上げられません。</p>
新岡委員	<p>④ 2点目の質問ですけれども、これ現在e-ふらっとに担っていただいている部分と、これ今回公募する事業の業務内容というのは同じだということですが、今までの業務が変わらないということですが、であれば、なぜ今回このような公募を新たにするのかということ、その理由について伺います。</p> <p>また、4か所の相談事業所があるということですが、この公募に関しては、その4か所ある相談事業所のどこかがこの基幹相談支援センターを担うということ想定なさっているのか、そこについて伺います。</p> <p>⑤ 3点目の質問ですが、公募の概要で、箇所数が各1か所というふうになっているのですが、1回目の最初の答弁にもありましたけれども、別々の事業所がそれぞれ担うというパターンも想定されているのかということ伺います。</p>
佐藤障がい福祉課長	<p>④ 基幹相談支援センターの公募について、既存の4か所が担うということ想定しているのかということですが、基幹相談支援センターの公募に手を挙げられる</p>

<p>新 岡 委 員</p>	<p>条件としては、相談支援事業所の指定を受けているという条件になります。この4か所、さらには、なるべく広く公募したいというところもありますので、可能であれば市外の事業所なども視野に入れてまいりたいと考えております。</p> <p>⑤ まず、今年度につきましては、既存の事業を分けることでの契約変更において、基幹相談支援センターを設置する方向で考えておまして、今回の公募については令和8年度からの要件になります。ですので、今年度については、事業の内容は変わりませんが、令和8年度以降については今、市で考えている地域生活支援拠点ですとか、そういった施策を視野に入れた業務内容を現在考えているところです。</p> <p>⑥ 分かりました。基幹相談支援センター、これは基本的には現在市内にある4か所で、さらに視野を広げて市外の事業者もというところだというふうに理解いたしました。なかなか資料を読んでみても、内容が難しく、この基幹相談支援センターと相談機能、これを切り分けていくというところの理解でよろしいのかなと思っております。今までやっぱり障がい者の高齢化ですとか、親亡き後、その障がい者の方が地域の中で安心して暮らしていくという部分では、今、課長のお話にもあったように、地域生活支援拠点等というものの整備が非常に求められてくるのかなというふうに思います。今、課長のお話の中でもあったのですが、その拠点等の整備も含めて、どういった支援体制、相談支援体制が整えられていく、そのつながりというか、見通しについて、何か今後の動き、取組がお考えがありましたら、最後に答弁いただければと思います。</p>
<p>佐藤障がい福祉課長</p>	<p>⑥ 今後の見通しは、資料にもありますとおり、障害福祉における重層的な相談支援体制の、この第三層に当たる基幹相談支援センターを設置いたしまして、そこに、これは計画中のことではありますが、今後の方法として、今委員がおっしゃられた、地域生活支援拠点といったところを担っていただけるような方向で考えているところです。</p>
<p>吉 永 委 員</p>	<p>ここで委員長を交代いたします。</p> <p>1) 報告事項終了</p> <p>2) その他所管事務調査について</p>
<p>吉 永 委 員</p>	<p>【質疑】</p> <p>① 1件目は、冬季の高齢者の総合体育館の利用についてです。本年2月に歩行に杖が必要な92歳の男性が、医者から歩かないと歩けなくなりますよという指導がされて、奥様と一緒にタクシーに乗って総合体育館に向かいました。入場券を2名分購入して、ランニングコースを歩く予定でしたが、つえをついているということで、係員からランニングコースに入れないということを言われました。理由は、ランニングコースの利用者がつえに引っかかって転倒のおそれがあるとい</p>

うことです。高齢者はどこで運動すればいいのかと伺ったところ、げた箱の入り口付近を回って下さいという指示だったそうです。この高齢の方は、歳を取ってはいるが、犬みたいな扱い方をされたということで、御立腹されてお帰りになったということです。入場料は返してもらったのかというふうにお伺いしたところ、返金はされていないということで、往復タクシーを利用して入場料払ったが、運動ができなかったという事案でございます。

そこで、本市の高齢者、特に冬歩くとか軽い運動ができる場所があるのかどうか。それから、つえをついている人がランニングコースを利用できないということなんですが、ノルディックウォーキングは玄関でやるんでしょうが、ストックを突いても利用できるんですが、ストックが許されてつえが駄目なのはなぜかと。あと、ランニングコース、冬季の高齢者の運動について伺います。

② 2件目、体育施設の使用料の減免制度についてお伺いします。かつて体育協会加盟団体が大会の後援になっていれば減免制度が使えたというふうに記憶しております。最近では、大会の主催もしくは共催になってないと減免にならないということなんですが、これでよいのかどうか伺います。

渡部健康スポーツ課長

① スポーツ施設に関する部分なので、私のほうからお答えをさせていただきたいと思いますが、まず、1点目の総合体育館のランニングコース、アリーナの2階の部分だと思いますが、そこでつえをついた方が残念ながらお断りをさせていただいたというようなお話でした。これは私ども、総合体育館のほうでそういった報告は聞いていたところではあります。その報告があった後で、私も実際、再度総合体育館に行って、そのランニングコースの状況も目視と伺いますか、確認をしてきたのですが、本市の総合体育館のランニングコースというのは、幅間が1メートル20センチぐらいの、本当にこのぐらいですね。かなり細いといいますが、狭い状況になってございます。そこを、一応センターラインを設けて、60センチずつ2コースというような形で、かなり無理な設定にはなっているのですが、そういうような形で、ふだんから走る人、それと歩く人を、歩く人は比較的内側を歩いてもらう、走る人は外側を走ってもらうというような基本的なルールの中で御利用していただいているところなんです。ということで、そこにつえをついて歩いてしまうと幅が非常に狭いということなんです。私もちょっと実験というか試してみたのですが、やはり60センチは簡単に超えてしまうのですね。ぴっちり端に沿ってというわけにはいかないものですから。そうすると、走っている方、それからほかの歩行者の方と接触する危険性というのがどうしても拭えないということで、我々施設管理の面からは、安全を担保するということがまず前提になっていきますので、残念ながら、ノルディックウォーキングのポールも含めて、つえというものを活用してのランニングコースの御利用は御遠慮いただいているところなんです。そういった方については、委員おっしゃっていただきましたけれども、1階のホワイエと言われるロビーの部分、そこが、ほかの方もそこを歩きたいという方も中にはいらっしゃるものですから、そこについては料

金設定も定められていませんので、いわゆる無料で使っていただいているというよう
な状況になっています。というところで、ちょっとランニングコースはなかなか
御期待に応えることがちょっと難しい状況ではあるのですが、総合体育館でとい
うことであれば、ホワイエをまず御利用いただければなということ、今後もそ
ういったことで提案されたらそのようにお答えしていきたいと思っているとこ
ろです。

② 体育施設の減免の関係ですけれども、体育施設の料金については、条例及び施
行規則の定めに沿って設定、うたわれておりますので、そのルールどおりに活用
しています。その中で、体育施設条例につきましては、体育施設条例施行規則の
使用料の減免第9条のところに条文がございまして、その第9条の2項の(1)
のところで、まず、恵庭市または各行政委員会が主催または共催する事業で使用
する場合は5割減免というルールが明記されております。ここがまず基準になり
ますので、市が主催または共催であっても5割というようなどころがありまし
て、過去のいきさつは正直ちょっと調査ができていないのですけれども、後援と
いう形で利用されたときに、その後援する申請者を減免ができるかというのは、
現状としてはこの条例施行規則に照らし合わせても難しい状況であるというこ
ろです。

小路介護福祉課長

① 体育館でのお話は今スポーツ課長からありましたけれども、高齢者の冬場の健
康づくりという点で御説明をさせていただこうと思います。現在、憩の家での体
操サークルや、それからサロン活動でラジオ体操を行っていたり、それから百歳
体操のサークル等々で、健康づくりは通年通して行えるものとして行っている
ところ、そのほか、高齢者の健康づくりで、冬季の運動ということで、現在、
北海道文教大学の医療保健科学部と介護福祉課での共同研究として、冬場に文
教大の体育館やスポーツアリーナを開放していただき、回数等々、週の中で何回開
校していただけるかというのは協議なんですけれども、ウォーキングを行ってい
けないかということで、協議を今進めているところですので、こちらのほうも、
協議次第では健康づくりになっていくと考えているところです。

吉永委員

③ 小路課長のほう、非常にいい試み、すばらしいと思います。恵庭の体育館は危
険性も分かりました。ですが、要は、昼間の勤務されている方、もしくは学生が
使われてない時間を特定の日、特定の時間を区切ってウォーキングの日とするこ
とも可能だと。逆に言うと、文教大学も同じような話で、空いているところを使
わせていただくということですので、ぜひ検討をお願いしたいと思います。

④ それから、使用料の減免については分かりました。規定に基づいてやられてい
るということだったんですが、加盟のスポーツによって取扱いが違ったりするこ
とがあるかどうかということ伺います。

渡部健康スポーツ課長

④ 減免の話の続きですけれども、先ほど御答弁させていただいたとおり、基本的
には条例規則の定めに沿って取扱いをさせていただくというのが原則です
けれども、例えば、どういうふうなシチュエーションを想定されているか分かり

ませんけれども、例えば、全道規模の大会があると前提したときに、その全道規模の大会が恵庭市内の総合体育館で行われて、そこにその全道のスポーツ団体に加盟している恵庭市内のスポーツ団体が実質的に中心的に、事務局の中で実行部隊となって実質動くですとか、恵庭市民が中心になって活動するんだというような、そういったことが、お話をいただいた、御相談いただいた中で分かるといった場合につきましては、あくまで判断するのは我々市ではありますけれども、指定管に御相談いただいて、指定管から恵庭市のほうに協議するというような、これに限らずですけれども、何かあれば、分からないことがあれば協議をして判断をするというような場面もありますので、まずはそういったところで、その対象の団体の方に御相談いただければなと思いますので、そういった形でお願いできればと思います。

③ ランニングコースの時間の関係で、例えば、ウォーキングの日というような設定ができるかという御質問ですけれども、これも、先ほどお話ししたように、大変幅の狭いコースでございますので、ランニングは御遠慮いただいて、ウォーキングだけというような場面を設定することは、もしかすると可能かもしれませんが。ただ、先ほどのお話にありましたような、つえをついた方もいいですよと仮にしたときには、そういったつえをついて歩く方が複数来場されてそのコースを歩くとなると、そのつえ同士で、例えば接触事故が起きないだろうか、そういったことも、事故が発生する危険性のことも、我々がそういったことも頭に入れながら検討していかなければなりませんので、そういったことも踏まえて、冒頭で申し上げたように、安全・安心に利用していただくというのが第一でございます。そういったところから、今後も検討して、そういった声が引き続きあれば、その都度検討させていただきたいなというふうに考えているところでございます。

吉 永 委 員

⑤ 最後になります。狭いといえども2コースありますからね。そこはもう安全に十分配慮しつつ、ぜひ高齢者の健康のために御検討いただければと思います。今回の事例ですと、やっぱり行き違いもあるのでしょうか、ちょっと御立腹されて帰ったといったところがありまして、対応といたしますか、ほかにもちょっと僕は聞いたことがあるのですが、ぜひお客さんとして扱うというんですか、そういうところを十分配慮されるほうがいいのかなと思うのですが、ここについて最後御所見を伺います。減免については分かりました。

渡部健康スポーツ課長

⑤ お客様が怒って帰ってしまったというところは、我々といたしましても大変申し訳ない思いでございます。日頃から体育施設を管理している指定管とは、日々連携を密にして対応しているところでして、そういった意味では、お客様への対応も日々丁寧に安心して利用していただけるような環境づくりを、受付の段階からしてもらえるように心がけるよう指導しているところでございますので、引き続きそういったところはきちんと示して我々も注意してまいりたいと思います。

【報告】

佐藤障がい福祉課長	<p>私からは、市内牧場における障がい者虐待に関する本市に対する訴訟の経過について御報告いたします。</p> <p>本件に関わる第8回口頭弁論は、本年5月13日火曜日に行われております。被告恵庭市においては、第7回口頭弁論の結果、提出された証拠書類を提出しております。また、次回、第9回口頭弁論の期日につきましては、裁判所、原告側、被告側の3者において別途協議して決定することとなり、後日の協議の結果、第9回口頭弁論期日は本年9月5日金曜日午後3時からと指定されております。今後におきましても、事実と異なるとして争う点につきましては、本市の考えを主張してまいりたいと考えております。</p> <p>2) その他所管事務調査について終了</p> <p>日程5. 保健福祉部関連終了</p> <hr/> <p>12時17分 休憩</p> <p>13時15分 再開</p> <p>●日程6. 子ども未来部関連</p> <p>1) 報告事項</p>
村仲子ども政策課長	<p>資料説明⑩長期休み学童預かり事業の実施について</p> <p>資料説明⑪えにわ子育て応援隊「子育て応援フェス」の開催について</p> <p>資料説明⑫お留守番教室の開催について</p>
前野幼児保育課長	<p>資料説明⑬令和7年度こども誰でも通園制度（乳児等通園支援事業）の実施について</p> <p>資料説明⑮病児・病後児保育事業について</p>
生 本 委 員	<p>【質疑】</p> <p>私のほうからは、資料⑩の長期休み学童預かり事業の実施についてと、資料⑬のこども誰でも通園制度について、それぞれお聞きしたいと思います。</p> <p>① 資料⑩ののですが、料金設定のことでお伺いいたします。これは令和6年度から始められた事業で、ちょっと今さらと思われるかもしれませんが、定員が10名に満たなかったという検証実施結果があり、それは私も料金が高いからではないんだろうかというふうに思ったところです。それで、令和7年度から少し改めて見直しされた内容が出ているのですけれども、そもそも夏季利用料金を1万5,000円にしたという理由について伺います。</p> <p>② こども誰でも通園制度に関してなんですが、今回の第2回定例会の一般質問の中でも答弁されていたんですが、恵庭市は試行的に実施していくという内容だっ</p>

<p>村仲子ども政策課長</p>	<p>たんですけれども、実施方法について、3種類こちらのに出ていたんですけれども、一般型が2種類のやり方で行うという部分の、この一般型を二つに分けた理由と伺いますか、何かこれは理由があってこのようにしているのか伺います。</p> <p>① 私からは、資料⑩、長期休み学童預かり事業についての御質問についてお答えいたします。料金設定上限1万5,000円についてですが、昨年度も上限1万5,000円ということで、昨年度は夏休み、通しの利用で1万5,000円ということで、1万5,000円ということは変わりないです。内訳といたしましては、学童クラブの利用料を参考にいたしまして、夏休み2か月、おおむね2か月間、昨年度から夏休み期間が長くなったというのもありまして、2か月間の利用と。学童クラブに置き換えますと、1か月4,500円の利用料、これに、学童クラブによりけりなんです、1か月につきおおよそ2,000円のおやつ代、それが2か月分加わると。あわせて、夏休み期間中なので、バスに乗りレクに出かけたりだとかイベントをしたりとか、そういったことも実施するものです。そういったイベント料金も加味して1万5,000円というのは高くはないと伺いますか、妥当な料金設定だということで設定をいたしました。今年度も上限1万5,000円ということにしているのですけれども、昨年度の検証の中に、料金が高いというような声はアンケート等であったんですけれども、よくよく聞くと、ただただ高いということももちろんそうなんです、利用回数に対して1万5,000円は高いという声も、実態として多かった、日割り設定にしてほしいというような声もあったことから、今年度検証ということで、日割りの金額設定を設定して実施をすることで、改めてその結果を検証して、本実施に向けて検証してまいりたいと考えています。</p>
<p>前野幼児保育課長</p>	<p>② 私からは、こども誰でも通園制度の実施方法についてお答えいたします。一般型と余裕活用型2種類で御説明していたかと思いますが、国は、一般型の中に在園児と合同で保育をする在園児合同型と専用室で独立実施型という2種類、国のほうで一般型の中でさらに二つに内訳をしております、この募集につきましては、一般型の在園児合同と独立実施型、余裕活用型3種類で事業所のほうを募集しているところです。</p>
<p>生 本 委 員</p>	<p>③ 長期休み学童に関してなんです、恵庭市の学童クラブの利用料金に沿って月1万5,000円というのを算出したという説明は分かりました。これは、やはり休み中に保護者が働いていて、日中家にいなくて、子どもを預けたいという親が利用するものだと思うのですけれども、ひとり親家庭の方もこの制度というか、同一料金という扱いなのか確認のため伺います。</p> <p>④ こども誰でも通園制度の実施方法の3種類というのは、国のほうで決めているから、それぞれ実施する保育所、保育施設がこれから決まると思うのですけれども、それぞれの施設の中でこの3種類を作るということですか。それとも施設が選べるということですか。どういうふうな体制でやるかということを確認のため伺います。</p>

村仲子ども政策課長	③ 資料⑩の長期休み学童預かり事業の料金設定で、親家庭も同様の設定なのかという御質問です。こちら、ひとり親世帯への利用料金の減免というのは設定しているとは聞いていません。こちらは運営費補助を行っておりまして、実際の運営としてはこの3法人の中で運営をしていただいているところが実態としてございます。料金設定はその3法人打合せの中で統一して1万5,000円にしましょうということで、1万5,000円ということになったのですが、中には、同じきょうだいで利用されている方に関しては、半額の設定をしている法人もあると把握はしているのですが、ひとり親世帯に関しての減額ないし免除等の設定をしているということは把握しておりません。
前野幼児保育課長	④ 私からは、だれでも通園制度の実施施設が実施方法を選べるかどうかという点についてお答えします。この実施方法につきましては、実施施設がそれぞれ選べるようになっております。
生 本 委 員	学童に関しての話ですが、状況は分かりました。きょうだいでは差があって、2人目は半額という部分について分かりました。どちらにしましても、料金が安くなると利用する人数が増えるのではないかという考えで質問いたしましたので、こちらのほうは分かりました。こども誰でも通園制度のほうも分かりましたので、ありがとうございます。
早 坂 委 員	① 資料⑩の長期休み学童預かり事業の件で、これは対象の年齢はどうなっているのか伺います。
村仲子ども政策課長	① 長期休み学童預かり事業の対象年齢ですが、小学校1年生から6年生を対象としております。
早 坂 委 員	② そうしますと、幼稚園児とかいう子どもは対象になってないということで、幼稚園とかは夏休みとかはあるのか伺います。
前野幼児保育課長	② 幼稚園につきましては、幼稚園部門として通われているお子さんは夏休みがあると把握しております。
早 坂 委 員	③ では、保育園の場合も夏休みはあるということでよかったか伺います。
前野幼児保育課長	③ 保育園の部分については、夏休みはございません。
太 田 委 員	私からは、資料⑩の、同じく長期休み学童預かり事業のことについてと、資料⑫のお留守番教室について伺いたいと思います。 ① まず1点目、学童の預かり事業ですけれども、今生本委員からの質問の中で、大体疑問に思っていたことは解消されたんですけれども、検証の中で、利用が少なかった理由について料金が原因と考えているということだったんですけれども、冬のほうが少なかったことについても、おおむねそれが原因だと考えられているのかをまず伺います。 ② もう一点、お留守番教室のことについてです。これも先ほど概要はお伺いしたんですけれども、追加でお伺いしたいのが、これに関しては、学童クラブの利用

<p>村仲子ども政策課長</p>	<p>している子ども以外の子どもも、全ての小学生が対象になるのかということ、人数が限られるということでしたが、大体何人ぐらいを想定しているのか、大人も付き添いたいという場合は、一緒に来ても大丈夫なのかどうかを伺います。</p> <p>① 長期休み学童預かり事業の令和6年度実績、冬休みなし春休みの利用料金が低かったにもかかわらず、利用人数が少なかったことの検証についてということです。委員のおっしゃるとおり、冬休み、春休みに関しては、夏休みに1万5,000円かかったという声を踏まえて1万円にしました。昨年度はどちらも日額の設定はせずに、冬休み期間、春休み期間、利用一律1万円ということで設定をしたのですが、結果、御覧のとおり、定員に満たないような利用実績でした。アンケート結果の中には、利用料金が高かったという声が冬休み、春休みいずれも一切なかった。こちらについても、昨年度は夏休みが長くなった分冬休みが短くなったということもありまして、今年度検証で設定した日額設定を主に重宝されるといいますか、利用される方に対しても上限設定1万円というのと利用回数というのが、恐らく冬休み、春休みに関してはマッチしたので利用料金に関するアンケート結果というのはなかったと一応今の段階では検証しています。そちらも引き続き、今年度冬休み、春休み実施する中で、改めて検証していきたいと考えています。</p> <p>② 資料⑫のお留守番教室について、3点の御質問です。まず一つ目が、対象を市内小学生ということで、学童クラブの利用児童ではなく、市内全小学生を対照としているかという御質問ですが、こちらに関しては、市内全小学生を対象として、市の広報等で周知をかけて、申込みを受け付ける予定としています。</p> <p>次に、定員を設けるということで、具体的に何名ぐらいなのかというような御質問ですが、一応今のところ、えにあす、黄金ふれあいセンターいずれも定員30名ということで準備を進めているところです。</p> <p>最後の御質問、大人の付添いも可能なのかなのかということですが、保護者の方、一緒に参加することはグループワーク等もありますのでできないのですが、いずれも実施する会場の横といいますか、壁際といいますか、保護者が来て見ていただけたところも施設としては確保していますので、付添いに来て見学したいという方に関して対応させていただく状況です。</p>
<p>太 田 委 員</p>	<p>③ 学童クラブの長期預かりのことについて分かりました。ただ、去年見に行ったときに、何か所か見たのですが、この長期預かりの子どもは別室にしていることになっていて、その日によって人数が違うから、2人とか3人だけそこは別室で用意しなくちゃいけないような感じになっていたと思っていて、これは事業者側のほうが、そこに対して1人なり2人なりつけなくちゃいけないのが負担ではないかなと思って、子どもも何か分けられているという感がすごくあるかなと思ったのですが、それを同じところでいつもの学童の子と同じように過ごすことはできるのかどうかというのを次に伺います。</p> <p>④ お留守番教室に関しても概要分かりました。大人の方も子どもたちがどうい</p>

村仲子ども政策課長

ことを教えてもらっているのか知りたいかと思ったので、その点は安心できるかと思ったのですが、小学生全員が対象になるのであれば、周知方法に学校でプリントを配布するとか、学校のテトルとかいろいろなものを使って案内したほうがいいのではないかと思うのですが、その点について伺います。

③ まず、長期休み学童預かり事業について、実際の運営の中で、学童と一緒に活動ができないのかという御質問だったと思います。恐らく昨年、実地調査で見学に来てくださったときには、別々の部屋でやっているところを御覧いただいたと思うのですが、実際といたしましては、見ていただいたときはそういう形だったのですが、結構、学童と一緒に活動、公園と一緒に遊びに行つてそこに仲間に入るだとか、学童の夏祭りのイベントと一緒に入るだとか、実態としてはそういうふう運営しております、今年もそこに関しては同じように考えています。最初から最後まで学童と一緒にということになると、学童の基準の関係もありますので、そういうことはできないのですが、運営側も効率的に運営できるような形で、かつ、利用するお子さんが楽しんで過ごしていただけるような工夫を今年もしてまいりたいと考えています。

④ 次に、お留守番教室の周知方法、全小学生が対象であれば、学校経由でインターネットとかもしていいのではないかという御質問、御意見だと思います。おっしゃるとおり、周知方法については、そういった選択肢もあったのですが、何分、定員が30名程度の設定しかできなかったのと、そのうち、学童に通っているお子さんの中高学年のお子さんの枠として、希望者も募って、30名の中から15名ないし20名ぐらい利用されるようなことを今想定していますので、どの程度のお申込みがあるかは分からないのですが、すぐに申込みが定員に到達してというようなことを避けるために、学校へのプリント配布については、今回は見送ったところです。ただ、例えば30名に到達しても、おおむね30名ということなので、しばらくはオンライン申込みを打切りはせずに、様子を見ながら、会場のキャパの限界も考えながら受付をしていきたいと考えています。

太 田 委 員

私が見たとき以外にも、みんなが楽しく安全に活動できているのだったらそれでいいと思いますので、今年度もそこに通う児童の皆さんが楽しく安全に過ごせるように努めていただければと思います。これに関しては大丈夫です。

お留守番教室のほうもいろいろ考えられての結果で、学校で配布はしないということだったのですが、初めての事業で、どれぐらい申込みがあるか分からないというのもあるので、柔軟に対応していただけるということだったので、もしも今年度やってみて、必要であれば学校のほうでの配布も検討していただくようお願いして、こちらに関しても特に回答要らないです。

1) 報告事項終了

2) その他所管事務調査について

<p>長 谷 委 員</p>	<p>【質疑】</p> <p>① このたび、子ども未来部からは、三、四件、今の世の中の社会状況の変化を鑑みた女性の活躍できる世の中づくりということで、子どもの預かり方、ルール拡大したという御報告を受けたところです。確かにえにわっこ☆すこやかプランの中でもそうするというようなことをきちっと明記されていたのを受けて、迅速に対応していただいたことは非常に働く方たちにとってはありがたいことなのかなと思っています。</p> <p>今回提案された中で、こども誰でも通園制度、これは今年度試行で課題を検証してやりますということで、一般型と余裕活用型で、一般型の中では在園児と合同、専用室独立実施型というようなタイプが選べますということで、この中で見ると、専用室独立実施型ということは、これは別に保育士さんが必要だということになりますよね。それと、病児・病後児保育、保育士さんが1名に対して子どもが1から3名、市内1か所で設営するというので、私はちょっと2年間ブランクあったのですが、以前から保育士の人材確保の件で随分質問してたかと思うのですが、今こういった新しい事業展開をする中で、保育士さんの不足、人材不足ということがどのように行政として捉えているかということが1点。あと、恵庭市もこれからラピダス関係のことで人口が伸びるという想定があります。今後さらに若い方たち流入することも考えると、やはりこういった乳幼児、幼児、子どもの受入れ機関というニーズが増えてくる、また、多様な働き方に対応しなきゃいけないのかというふうに思っているところでもありますけれども、こういった保育士さん不足に関して、所管部ではどのように捉えているのか、現状も含めて伺います。</p>
<p>前野幼児保育課長</p>	<p>① 私からは、保育士の人材不足に関する市の取組についてお答えしたいと思います。市の人材不足、保育士の人材不足についての取組ではありますが、市では今までも保育士人材確保に関する事業を行ってきております。具体的には、保育士就労支援事業や保育士宿舎借上げ支援事業、保育体制強化事業など、保育士人材確保に関わる事業を実施しております。これらについても、引き続き実施の方針でまいります。</p> <p>保育士の人材確保の課題につきましては、今回の誰でも通園制度実施につきまして、どのような保育現場での現状というのがあるのかというのは、試行実施後に、保育士の保育現場の意見も聞きながら、さらなる施策が必要かどうか検討してまいりたいと考えております。</p>
<p>長 谷 委 員</p>	<p>② 例えば、今まで対策講じているんな保育士さん確保ということは重々承知の上での質問だったので、今各園で募集しますよね、こういう事業をやりたいからということで、例えば保育士がいないから、これは手挙げられないというようなことを聞いているかどうか伺います。</p>
<p>前野幼児保育課長</p>	<p>② 昨年、園と意見交換を行った中では、やはりこの事業を開始するに当たりまし</p>

<p>長 谷 委 員</p>	<p>て、保育士の人材確保というところが課題という意見も上がっておりました。現状といたしましては、まず、園が取り組めるような実施方法から取り組んでいただくですとか、今後も園と意見交換しながら、事業者確保に今後も保育士の人材確保も含め、努めていきたいと考えております。</p> <p>③ 全国的に今子どもの数が減っているのです、保育園が廃業になったという自治体もあちこち散見されるのですが、恵庭市の場合はまだもう少しの間、決してそうではないというふうに、所管は重々分かってらっしゃることだと思っておりますけれども、これからまだもう少し、保育士の人材確保というのが重要課題になってくるかと思っておりますので、新たな施策も含めて、いろいろな園との意見交換会の中で、市としての方向性も、人材を少し増やすという方向性もきちんとやっていただきたいというふうに、最後は希望を述べさせていただきますので、よろしくお願いいたします。何かあれば伺います。</p>
<p>前野幼児保育課長</p>	<p>③ 長谷委員のおっしゃるとおり、保育士の人材確保を含め大切な施策だと思っておりますので、引き続き幼児保育課のほうでも、市としてもやってまいりたいと思います。</p> <p>2) その他所管事務調査について終了</p> <p>日程6. 子ども未来部関連終了</p> <p>(理事者・執行部退席)</p> <p>【委員協間議】</p> <p>●日程7. 閉会中の所管事務調査について</p> <p>●日程8. その他</p> <p>委員長が閉会を告げる</p> <p style="text-align: right;">(14時15分 終了)</p>